

E-5 最近の子ども室の傾向について —女子短大生の自室の実態—
大谷女子短大 ○藤本佳子

目的 私生活の確立の必要性が言われて久しい。戦後33年経た今、住宅の中での個室化、洋風化、イス座への移行がひじょうに進行している。それがどの程度に進行しているのか、今回はとくにその傾向が顕著であると考えられる子ども室をとりあげ、その傾向を明らかにし、またその実態についても検討を加えたい。

方法及び結果 前記の目的達成のために、大阪府下の女子短大生289人に対し、自室の現状と理想の平面図を作図してもらい、合わせて家の主構造、住居の形式、住居の所有関係等についてアンケート調査を行った。調査時期は、昭和58年5月～6月末。

今回は、主として自室の広さとタイプについての現状と理想とを比較検討して、一知見を得たのでここに報告する。たとえば自室の現状は約6畳程度のものが最も多いが、理想の自室規模としては、さらに広いスペースを求める傾向がみられ、また住様式に関してはふとんよりベッドを志向する傾向が顕著にみとめられた。